



議会だより

わどまり



第154号

Contents

こんなことが決まりました.....	2P
pickup お願いってなあに?	2P
9名の議員が町政を問う.....	3P
絆のバトン・編集後記.....	12P



左の二次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、町議会のホームページにリンクします。

■令和3年第4回定例会 (12月14日～17日) 議案・審議・議決結果

議案等番号	件名	議員名 (議席番号順)											議事結果	
		山口明日香	島田浩樹	森富隆	川畑宏一	池田正一	喜井和夫	児玉実隆	東弘明	中田隆洋	山下幸秀	桂弘一		永野利則
議 55	国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 56	国民健康保険準備基金条例の一部を改正する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 57	町道路線の変更 (手々知名皆川線、プリ石線)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
議 58	令和3年度一般会計補正予算 (第5号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 59	令和3年度国民健康保険特別会計補正予算 (第3号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 60	令和3年度介護保険特別会計補正予算 (第2号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 61	令和3年度後期高齢者医療特別会計補正予算 (第2号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 62	令和3年度下水道事業特別会計補正予算 (第3号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 63	令和3年度農業集落排水事業特別会計補正予算 (第2号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
議 64	令和3年度水道事業会計補正予算 (第2号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
請 1	総合交流アリーナの建設事業の早期着工について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	採 択
議 65	令和3年度一般会計補正予算 (第6号) の議決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	原案可決
	議員派遣について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出書について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出書について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	可 決

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決 (賛成・反対の意思表示) 権はありません。

請願のゆくえ

【請願第1号】 紹介議員：島田浩樹議員
総合交流アリーナの建設事業の
早期着工について

提出者：和泊町体育協会、小中高・部活指導者

全会一致で採択

pickup せいがん 請願 ちんじょう (陳情) ってなあに??

町民の皆さんから、国や県、町の行政などに対する意見や要望を文章 (請願書・陳情書) で町議会に提出すること。

請願については、紹介議員が必要で、提出された請願書は関係する常任委員会等で審査された後、本会議で採決されます。町だけで対応できない問題は、国などに意見書として送付します。

◎採択された場合、一般的に議会の意見として各関係機関に意見書の提出や要望することができます。

興味のある方はホームページもご覧ください。→



ココが聞きたい 一般質問 町政を問う!!

令和3年 第4回
議会定例会

●池田 正一議員 P 3

●島田 浩樹議員 P 4

●山口 明日香議員 P 5

●児玉 美隆議員 P 6

●中田 隆洋議員 P 7

●山下 幸秀議員 P 8

●東 弘明議員 P 9

●桂 弘一議員 P 10

●川畑 宏一議員 P 11

一般質問とは??

議員が町の行財政全般について、事務・予算等の執行状況や、今後の考え・方針を聞き、疑問点を質問すること。



町民、子ども達の住みやすい町へ



池田 正一 議員

子どもの島外受診旅費助成
について

問 実施要綱が改正されたが、従来の内容に戻せないか。

答 以前は船賃と宿泊2泊分の助成だったが、5万円の定額補助に改正した。緊急性のない定期検診や経過観察等にも誤って助成

していたため、現在は、要綱に添った事業実施を心掛けており、従来の内容に戻すことは予定していない。

金婚式について

問 合同金婚式を開催する考えはないか。

答 対象者が限定的になること等を考えた結果、町主催での開催はふさわしくないと考えている。引き続き、来年度の敬老会等でお祝いができないか協議を続ける。



総合交流アリーナ建設について

問 アリーナ建設を見据え、財政シミュレーションが作成されたが、建設時期や規模等について、今の町長の考えは。

答 12月9日に総合交流アリーナ建設事業推進協議会からの答申を受け、現段階では、建設候補地・規模はまだ正式に決定していない。財政状況の改善が見込まれる時期が来た時に、様々な可能性を検討し、事業を開始したい。

行政財産に係る契約について

問 伊延港ふ頭用地貸付料に関して、借受関係者

等と協議をされているが、内容は。

答 令和元年7月に締結した伊延港ふ頭用地貸付料に対し、同じ港湾区域内の土地使用料でも金額に大きな差異があり、見直しできないか相談があった。

同じ港湾区域内でも港湾施設としての伊延港ふ頭用地と、緑地とでは金額算定根拠となる条例が異なり、別々の条例、規程等に基づき算定していることを説明し、条例に基づき定めた契約金額を契約期間中に変更することはできないとの回答を文書で出しており、納得していただいた。

安心安全な通学路整備を



しまだ ひろき 議員 島田 浩樹

通学路の安全対策について

問 通学路の歩道整備計画は、どのようになっているか。

答 通学路整備は、社会資本整備総合交付金事業などを活用し、歩道整備を道路拡幅の改良事業と併せて行っている。

今後の歩道整備については、学校や地域から要望があつた箇所で地権者の同意が得られている路線を優先的に整備するように考えている。歩道整備については、子ども達の通学路における安心安全を確保できるように地

域の声を踏まえ今後も画的に行っていく。

問 児童生徒が安心安全に通学できる通学路確保のため、防犯灯の増設等できないか。

答 通学路灯については、教育委員会事務局が設置及び維持管理を行っている。通学路灯は、おおむね100メートルから150メートルの間隔に1基設置しており、和泊中学校区に58基、城ヶ丘中学校区に66基、合計124基設置している。

現在、通学路灯は蛍光灯からLEDに徐々に交換しており、通学路がより明るくなり、児童生徒が安心安全に通学できるよう努めている。

防犯灯の増設等については、調査した上で通学路において増設が必要な箇所があるなら整備していく。

令和4年度当初予算編成について

問 令和4年度の当初予算編成方針は、どのように考えているか。

答 令和4年度当初予算編成に当たっては、国・県の予算編成方針をふまえ、限られた財源をより一層有効に活用することが求められているため、自らの財政構造の点検を十分に行うとともに、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策や町内経済の循環・回復に向け取り組む必要がある。

また、これまでの慣例にとらわれることなく、民間のラスト意識を持ち、町民の生活に直結する必要性の高い施策・事業を展開したいと考える。

本町では、「第6次総合振興計画」を、明るい未来に向けた指針とし、心豊かに暮らせる社会の実現に向け、

取り組んでいる。「住んで良かった」「今後も住み続けたい」「住んでみたい」と思える、活力ある「和泊町」の実現に邁進する予算編成としていく。



▲ 路側帯が狭くすぐ横に側溝



▲ フタ閉めをして安全な歩行空間確保を

充実した家庭保育支援を



山口明日香 議員

介護用品支給サービスについて

問 介護用品の種目の拡充はできないか。

答 介護用品支給サービス事業では、要介護1から5の在宅要介護者で介護用品を必要としている方について、年に6万円を上限として介護用品の購入費用の支給を行っている。現在の対象種目は、紙おむつ・尿取りパットとなっており、多くの要介護者が必要とし、費用負担の大きな種目となっている。ご家族や居宅介護支援専門員から要望を聴き取り、

多くの要介護者が必要とする種目があれば、都度検討していきたい。

問 購入先の拡大等、利用しやすい環境にするために要綱の見直しはできないか。

答 現在8事業者が登録されており、町としては、町内で調達可能な品物は町内事業者からの購入をお願いし、事業者への継続的な活用を支援して行きたい。現在、対象となっている介護用品は、町内で調達可能な種目であるため、現在の要綱について、見直しは考えていないが、要介護者やご家族が利用しやすい環境づくりを、居宅介護支援専門員や訪問介護事業者等と協力しながら進めていく。

子育て支援について

問 ゆとりある子育てが出来る町づくりの二環として家庭での育児の充実を図るための家庭保育応援給付金の創設は、令和3年度第1回定例会後、どのような検討がなされたか。

答 家庭保育の支援については、協議の方向性としては、ただ支援金を支給するのではなく、ニーズの多かった母親が日頃の育児から開放され、リフレッシュするため時間を提供できるように協議し、検討を進めている。

公共施設の整備計画について

問 やさしい町づくりの二環として、町内の公衆トイレの洋式化は必要だと考

えるが、整備計画はどのようになっているか。

答 町内の公衆トイレは、現在22箇所ある。令和元年度から令和2年度にか

けて、観光施設周辺や利用者の多い公園に設置しているトイレは、和泊町公共施設等個別施設計画に基づき、洋式化等の改修工事を行っている。現在、洋式化のトイレは16箇所となっており、残りの6箇所の和式トイレは、近隣に整備済のトイレがある事など、代替利用が可能な状況となっている。

どんな介護用品が対象になるの？

対象となる介護用品は次の表のとおりです。

種類	機能
パンツタイプ	おむつカバー不要 単独で使用するもの又はパッドタイプ
フラットタイプ	おむつカバー、パンツタイプ、パッドタイプなどと合わせて使用するもの
尿取りパッド	おむつカバー、パンツタイプ、パッドタイプなどと合わせて使用するもの
おむつカバー	

サービスを利用しやすい環境整備を

町の発展を問う



こだま さねたか 児玉 実隆 議員

産業振興について

問 花きの販路拡大への取り組みは。

答 昨年度に県の地域振興事業を活用して、沖永良部花き専門農協と国外出荷の可能性についての取り組みを行った。今年度は、県の香港事務所と連携し、「日本秋祭in香港」へ花材の提供を行ったところ輸入商社から品質について高評価をいただいた。来年度以降も引き続き、海外に向けた輸出の可能性や国内の消費者ニーズに合った※スマートフラワーの実証など販路拡大に繋がる取り

組みを実施していく。

※スマートフラワーって？

家庭に飾るのにちょうど良い長さで生産・出荷・販売することで、廃棄やごみを削減し、環境負荷を少なくしたエコなお花のこと。



▶輸送コスト支援事業の活用を

問 「沖永良部島鮮魚」としてのブランド化はどの進めるか。

答 これまでの島外出荷や島内セリ手数料収入では、漁協の経営や漁業者所得の向上は見込めず、水産

加工品の開発に取り組んでおり、平成29年度から水産加工場整備、大型冷凍冷蔵庫整備、水産加工用機器等を順次導入し、令和3年度から商品開発に特化した地域おこし協力隊を1名採用している。

「沖永良部島鮮魚」としてのブランド化は、各種事業を活用し、ソデイカや干物の加工品パッケージデザイン制作、漁協のオリジナルブランドロゴ制作、沖縄県の水産加工会社と連携したソデイカ常温商品の共同開発を実施している。

沖永良部島水産ブランド商品として島内外の消費拡大と販路開拓に取り組み、漁業者の所得向上に繋がるように支援していく。

問 観光の誘客対策は。

答 昨年度、和泊町・知名町・観光協会と連携し

て各種メディアを通じた発信、ウェディングやサイクルツアー等の新しい着地型観光プログラムの開発を進めており、効果も感じている。

現在、国立公園エリアを活用した新しいプログラムづくりやオンラインツアー造成、※デジタルサイネージコンテンツ作成が進行中であり、引き続き2町と観光協会と連携しながら、継続的に新しい着地型プログラムの造成や、情報発信、旅行会社の受け入れ等を充実させ、今後予定されているGOTOキャンペーン等の国の事業も活用し、誘客促進を引き続き図っていく。

※デジタルサイネージコンテンツって？

施設などに設置される電子看板のこと。



柔軟性とスピード感の両立



なかだ たかひろ 中田 隆洋 議員

沿岸海域の保全について

問 漂着軽石の対応は。また除去後の処理は。

答 成分に有害物質は含まれず、海洋生物に大きな影響はないと考える。観光地海岸は、ボランティアの協力により、土木課で回収している。その他の海岸線は、重機の乗り入れもできず困難な現状である。港湾・漁港施設は、土木課で重機による回収を行っている。漁協前の軽石は、漁業者の人力による回収や建設会社
の重機を使用した回収を随時行い、これに係る人件費、

重機使用料、フレコンバッグ購入費を県へ支援要請している。

除去後は、町有地や港湾施設内に仮置きしているが、島外への搬出も検討しながら、土壌改良資材の利用も調査を行っており、農家から要望があつた場合は提供するなど柔軟に対応している。

問 南栄糖業(株)、沖永良部農業開発組合付近の沿岸海域の環境は。

答 南栄糖業株式会社の排水は問題ないと認識している。沖永良部農業開発組合では、原材料から染み出た水が大規模な降雨により海へ流れ出た。水質検査の結果、有害物質は含まれないが、海中の酸素濃度が低下する可能性がある。止水壁の高上げなどの対策を行ったが、更

なる対策が必要である。

過去の土地改良事業の換地処分に係る清算事務について

問 進捗状況は。また、早期解決に向けての課題と対策は。

答 沖永良部土地改良区(旧白百合土地改良区)が清算事務を担う地区は、10地区あつたが、平成30年度から町が主導のもと2地区が完了し、残り8地区について、現在も換地清算完了に向けて取り組んでいる。換地処分登記から20年以上経過している地区もあり、権利者の高齢化、相続や売買による権利の移動等、権利者の特定に時間を要する。また、増配分の権利者に清算金の徴収について理解が得られないのが課題。これ以上長期化することは望ましくないため、同様な案件を解決した事例の調査を行い、

また町としても何処までの支援ができるか等、早期清算完了に向けて取り組む。

第8次行財政改革大綱について

問 進捗状況は。また、実施計画の数値化は。

答 初年度は、ホームページのリニューアル、議会及び各課長用タブレットの導入や公用車の一括管理、公有財産の貸付者に対し買受意向調査を実施した。今年度は、申請手続省略化のための申請様式の見直し、LINEを活用した情報発信、定員適正化計画の見直し、公有財産の買受意向のあつた土地の売却に取り組んでいる。実施計画の数値化は、各課で目標設定を行った。

総合交流アリーナ建設計画は



やました ゆきひで 山下 幸秀 議員

環境問題について

問 軽石が各地沿岸に押し寄せ、海岸やリーフの生態系が心配されるが、対策は。

答 これまで港湾・漁港施設は施設利用者や職員によって重機を使って撤去しており、海岸はボランティアの方々に回収を行ってもらっている。

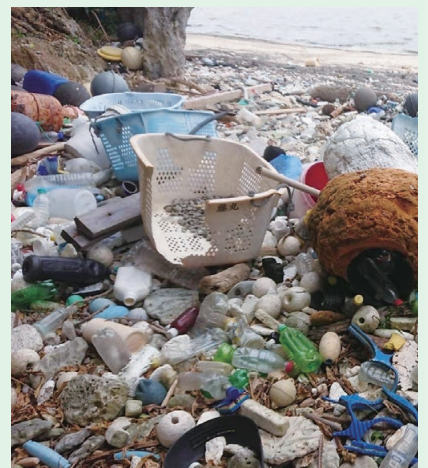
問 今後は海岸漂着物等地域対策推進事業を活用し、軽石の回収除去を進めていく。マイクロプラスチックの海洋汚染により人体への影響が懸念される

が、削減の取り組みはどうなっているか。

答 プラスチックごみの処理は、ペットボトル・発泡スチロールは、資源ごみとして収集し、クリンセンターで圧縮及び破碎、溶解処理を行い、島の再商品化事業者へ搬出する等再資源化しているが、海岸漂着によるプラスチックごみは、漂流による汚れや劣化で、現在再利用が困難なため、土木課の事業で回収し、他のプラスチックごみとともに破碎・焼却処理を行っている。



打ち上げられた軽石



打ち上げられた漂着ゴミ

総合交流アリーナ建設について

問 総合体育館が整備されていない中、各種スポーツ大会や文化イベント開催等に支障をきたしているが、今後の取り組みについて町長の考えは。

答 総合交流アリーナ建設事業推進協議会からの答申を受けたところであるが、本事業は多額の予算を投じることになるので、財政状況の改善が見込まれる時期が来た時に、様々な可能性を検討しながら、事業を開始したい。

議会活動報告

● 10月21日 議会広報研修会(鹿児島市)
内容: 議会広報紙の講評、講評にあたっての基本的視点の講義
出席: 中田議員、山口議員
報告: 議会広報紙を作成する際には、何をどのように情報を伝えるかをしっかりと定め、町民へ伝わる編集が大切であり、情報の流れが容易に伝わる紙面構成になっているか、関連情報の検索が容易に図れる編集工夫をしているか、また、一般質問では対話を文章にしているため、質問も答弁も長文ではなく短文で同じ長さにしたりと、見やすくするための留意点などを学びました。
和泊町議会だよりでも、すでに実施しているところもありましたが、町民の皆様にも手に取って頂けるよう、見やすく・分かりやすく、編集していきたいと思っております。(山口 明日香)

議会ボランティア活動報告

10/17(日)
笠石ゆり園にて
ゆり・フリージア球根植付作業

今から満開が楽しみです!



農業の未来を展望して



ひがし ひろあき 議員
東 弘明

新型コロナウイルス感染症対策について

問 今後予想される第6波に備えた対策は。

答 島外からの水際対策として、港や空港における検温の実施、12歳以上の希望者へのワクチン接種を進めながら、体調不良時の外出・移動の自粛をお願いしている。

第6波の到来に備えては、県が策定中の計画の中で、必要となる病床数や宿泊療養施設数を算出しており、必要数確保については目途が立っている。また、離島にお

ける宿泊療養施設や島外への搬送手段の確保などを進めるにあたり、連携して体制を構築していく。

農地利用について

問 10年後、20年後の農地利用について、「人・

農地プラン」実質化に向けて取り組まれているが、課題は。

答 9月から12月にかけて、全集落において「人・農地プラン」の実質化に向けた話し合いが実施され、「農地の集約化」と「担い手対策」をテーマにワークショップ方式で行い、年代や農業の経営規模に関係なく、地域住民から多様な意見が得られた。

課題としては、多くの地域において、高齢化や人口減少、担い手不足が加速化する中、

基盤整備や畑かん施設が整った優良農地は大規模農家によって利用される一方、基盤整備等が行われていない農地は適切に利用されなくなることが懸念される。

障がい者福祉の取り組みについて

問 障がい児に対する支援内容と今後の支援拡充についての考えは。

答 障がいのある子どもに対して「療育」と総称される福祉サービスがあり、和泊町では約90人の児童が利用している。

島内では6つの事業所において、計画作成等を担う相談支援サービスと通所型の児童発達支援・放課後等デイサービス及び訪問型の保育所等訪問支援が実施されている。

いずれも個々の特性について評価を行い、それに応じた

関わりを通じ、対象児童が無理なく社会と共存できる手段や方法を模索し、有効な訓練を実施するものである。

今後の支援拡充については、地域におけるニーズの把握を行ったうえで関係者と協議し検討していく。

問 障がい者の雇用実態は。また、障害者就労支援施設「さねん」における利用者状況は。

答 今年度の障がい者の雇用実態は、「あまみ障害者就業・生活支援センター」に2名、「障害者就労支援施設さねん」に2名、「一般企業就労に1名が繋がっている。「さねん」における利用者は、給付決定者数22名のうち、実利用者月平均は、20名程度である。

各関係機関と連携を図りながら、地域での就労継続支援ができるよう取り組みを続けていく。

可能か？沖永良部版エネルギー革命！！



かつら ひろかず
桂 弘一 議員

沖永良部版2050年カーボンニュートラルについて

問 脱炭素社会への取り組みに向けて、町長はどのような熱い思いを持っているのか。

答 今回の国連気候変動枠組条約第26回締約国会議ではパリ協定のルールブックも完成し、カーボンニュートラルに関わる技術開発などの国際的な競争の激化や法整備が更に進められるものと思われる。

このように変貌を遂げる新たな世の中に対して、子ども達のため、そして未来のためにも適応し、リードしてい

かなければならない。そのため、島単位で脱炭素社会構築に取り組む必要があり、国の補助金等を活用し、再生可能エネルギーの導入に向けて積極的に取り組み、早期達成を目指す。今、30代くらいまでの人達は、「ゼロカーボン世代」であり、「ゼロエネルギー住宅や電気自動車への乗り換えなど、生活のあらゆる場面において脱炭素の暮らしを支援することで、新しい価値観、新しい生活様式の中で最先端の輝く島に生まれ変わるチャンスである。

問 島全体で脱炭素化に取り組むと公言されたが、今現在、何を話し合い、共有し、どのような協定が結ばれているか。

答 今年度は、地球温暖化防止対策普及啓発事業と再生可能エネルギー導入計画づくりを両町で各々取り組

み、情報の共有や協力、連携を図りながら進めている。また、防災拠点施設等を中心に、小規模の地域を再生可能エネルギーでつなぐマイクログリッド構築事業においては、京セラ株式会社と両町の3者で9月17日に包括連携協定を結んだ。目的は、沖永良部島における地域の多様な諸課題に迅速かつ適切に対応し、持続可能で活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展を図ることとしており、「ゼロカーボンシティの実現及び再生可能エネルギーの地産地消に関すること」などを連携・協力事項としている。

この事業における第1回検討委員会が九州電力株式会社も参画のうえ、10月26日に開催され、マイクログリッド構築における導入設備の確認や電気の流れをどのようにコントロールするのか、またトラブル時の対応方法など、懸念される事項の洗い出しや今後

の検討委員会を進めていくための目指す方向性の確認等が行われた。

問 沖永良部島のエネルギー関係で、地理的条件や産業構造等の課題として考えられることは。

答 島のエネルギー関係については、地理的な条件は一番に太陽光、次に陸上風力となっているが、安定的な供給に不安がある。産業構造等の課題としては、移動手段を車に頼っており、農耕用の作業車等も多く、車両からの二酸化炭素排出量が多いのが現状である。

今後調査、分析を行い、両町で連携しながら、国のモデル地区の指定や補助金等を活用し、島に適した再生可能エネルギーについてあらゆる技術の選択肢を追求しながら、2050年カーボンニュートラルの達成に向け、取り組んでいく。

財政健全化の抜本的な取り組みを！



川畑 宏一 議員

行財政運営について

業務委託や指定管理に
おける収支および今後
10年間の大規模改修（機器
更新）等にかかる費用は。

光ケーブルの維持管理
や台風の影響復旧等
を含む有線テレビ事業全般
の経常的収支は、11年間で
3億6418万円（年平均約
3300万円）の赤字。なお、
7年間の番組制作業務委託料
は年平均で2630万円。改
修費用等は、令和6年度から
7年間で約1億円必要となる
見込み。今後、運営方法や使
用料等の見直しが必要。

（タリソ施設や研修センター
の収支等も答弁頂いたが、運

営にかかる町からの負担分が
全て考慮された数字でないた
め、改めて報告したい。）

その他の施設・設備の
大規模改修（機器更新）
の費用は。

公共施設等総合管理計
画において今後10年間
で約44億円が推計され、加
えて学校関連8億4600万
円、水道施設10億5000万
円、土地改良事業の負担金
4億円、クリーンセンター建
替20億円（本町負担分）等が
概算で見込まれる。

行財政運営における新
たな取り組みは。

財政健全化へ向けて、
チエック体制と自主財源
確保に繋がる「ふるさと納税」
事業を強化するための体制整
備として、12月1日付けで人
事異動を実施した。また、来
年度の当初予算編成において
新たに「重点新規事業枠」を
設け、きめ細やかな住民サ-

ー

ビスや本町独自の取り組みを
推進していく。

開かれた町政運営へ向
けての取り組みは。

町民の行政情報に対す
るニーズを的確に捉え、
個人情報保護に配慮したう
えで、適切な情報の提供・公
開を行う。また、「対話」に
よる町づくりを基本に、町民
目線での行政運営を推進し、
町政全般における町民参加を
さらに促進するとともに、町
民の意向を町政運営に的確に
反映できる仕組みを構築して
いく。

障がい者福祉について

特別支援学級の設置に
おける課題は。

主に、①障がいの状態
に応じた教師の指導技
術の向上 ②安心して過ごせ
る教室環境の整備 ③学校・
児童生徒・保護者・地域等に
おける特別支援教育に対する
理解と配慮、の3点が挙げら
れる。

る。

障がい者雇用促進のた
め、地域おこし協力隊
でジョブコーチ（職場適応援
助者）の募集はできないか。

関係機関と連携を図り
ながら地域における協
力企業を確保し、支援体制の
基盤確保を行った上での対応
が必要。今後の障がい者雇用
促進の手法の一つとして検討し
ていく。

高齢者福祉について

免許返納後の移動手段
となるバス路線実現の
取り組みは。

令和3年度に路線再編
を実施予定。今後は、更に
詳細な路線再編を検討するた
め、調査に基づき「沖永良部
地域公共交通計画」を策定
し、具体的なロードマップを
示して実行していく。

新型コロナウイルス感
染症第6波への備えは
万全か。

PG東議員への答弁参照。

PG東議員への答弁参照。



私は幼いころから両親の農業を手伝うのが好きな子どもでした。

小学校、中学校、高校と進むにつれ、農業についての知識も増え、やりがいや楽しさも知りました。

高校3年生の時に父から「農業を継がないか」と言われ、多くの同級生が島外へ出て進学や就職をする中で迷いもありましたが、両親や周囲の大人からの後押しもあり、高校卒業と同時にばれいしょ農家として就農する事に決めました。

就農して約10年が経った2011年に農業法人を設立しました。法人化する事により、取引先や販路を拡大することができました。

そして2015年には国際認証GGAP(グローバルギャップ)を取得し、2016年に鹿児島県認証K-GAPを取得しました。

生産管理工程を明確にし、作物はもちろんの



こと、働く人や環境へ配慮した農業に取り組むことで、品質・収量が向上し、大手スーパーへの契約出荷ができるようになり、経営の安定へと繋がりました。

現在、私の農園では、農繁期に住み込みのバイトで年間30名近くの方々を島外から受け入れています。

島で生活し、仕事し、仲間が増え、沖永良部を気に入ってくれて移住した方も数名います。町に対しては、もっと島への移住者が増えるためにも、空き家があれば移住者のための改修をしていただきたいと思います。

僕の大好きな沖永良部島をみんなで盛り上げていけたらと思います。

これからもちばゆんどー!!!

プロフィール



みなむら まさき
皆村 正樹 さん(38歳)

妻: 美穂さん 長女: 美優さん
次女: 優衣さん 長男: 樹希さん
三女: 希心さん

和泊町皆川字出身。
沖永良部高校卒業後、家業であるばれいしょ農家を継ぐ。
ドローンを導入しスマート農業にもチャレンジ中!

ドローン×次世代農業!!

編 集 後 記

伊原副町長が就任し、役職のそろった議会定例会、町民の代弁者として、各々想う町づくりを、そして、財政の健全化に向けてさらに一步踏み込んだ議論ができた議会であったと感じた。議会広報を通じ、さらに町民と議会の関係構築ができるように努めたい。

文責 中田 隆洋

- | | | | | | |
|----|------|----|-------|----|-------|
| 委員 | 副委員長 | 委員 | 編集責任者 | 議長 | 発行責任者 |
| 山島 | 中田 | 児玉 | 野 | 永 | 利 |
| 口田 | 明日 | 香 | 樹 | 隆 | 則 |
| | 浩 | 隆 | 実 | | |
| | 日 | 香 | 樹 | | |

今号の表紙



今回の表紙は、1月6日に行われた「令和4年出初式」の様子。大城・内城こども園の幼年消防クラブの元気いっぱい、笑顔いっぱいの子も達が、誓いの言葉、ダンスを披露してくれました。火災予防意識に努め、今年1年安心・安全な町にしましょう。